



町政の現状と今後の計画を把握しようと、町長を招いて寿学級・女性ふれあいセミナー合同学習会「町長と語る」が1月17日、中央公民館で開かれました。今回のテーマは「住んでいる地域の行政を理解し、住みよい町づくりへの意欲を持とう」で、講師の斎藤町長から講話が行われました。また、質疑応答では、町長とヒザを交えての懇談が行われ、49人の参加者はメモを取りながら熱心に聴き入っていました。ここでは、講話と質疑応答の要旨をお知らせします。

住みやすいまちづくりを学ぶ

講話

町の現状と今後の計画

防災に強いまちづくりを進めている町では、皆様からご協力いただいた新潟中越地震義援金253万余円と町の備蓄食糧800食を被災地に贈りましたところ、新潟県知事よりお礼状をいただいておりますのでご報告いたします。

平成11年度に着手した公共下水道事業については、昨年4月から江口・南大島・新里・中谷・梅原地区の一部地域で供用を開始しました。また、市街化調整区域を対象にした下水道の農業集落排水事業については、平成17年度には津井・江口・梅原地域を対象に設計を行う予定です。

次に、国道122号の昭和橋架替工事は埼玉県が進めており、平成18年3月までには完成できる予定と聞いています。

また、平成17年度から26年度までの10年間を目標とした第5次明和町総合計画は、12月定例町議会で承認され、水と緑豊かな活力あるまちを目指して4月からスタートする予定です。現在進めている

第4次総合計画では、川俣駅周辺の土地区画整理事業等が課題となつているため第5次総合計画の中にこの事業を盛り込んであります。

次に、国と地方の税財政を見直す三位一体改革が進められている中、全国で市町村合併も議論されており県内でも来年4月には39市町村になることが予想されています。町の将来の中では館林市と邑楽郡が一緒になるのがよいと思っています。

また、健全財政を堅持している町では、財産と借金のバランスをみる「バランスシート」の公表や安全で快適な生活の確保を図る「交通安全に関する条例」の制定、安心して生活できる地域をつくるため「安全で安心なまちづくり推進に関する条例」の制定、環境基本計画を策定し環境保全活動に取り組む「ISO14001」の認証取得、保育園給食の外部搬入を可能とする「子どもたちを地元食材で育てる構造改革特区」に認定されるなど、最小の経費で最大の効果が上がるような先進的な事業にいち早く取り組んでおり、先の群馬よみうりで「住みやすい町の部」1位として評価されています。